第二回

平成二十五年度

宇都宮短期大学附属中学校

入学試験問題

国語

注意

1 「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
2 試験時間は四〇分間です。
3 問題数は大きな問題が三問で、問題文は一ページから七ページまであります。
4 答えはすべて解答用紙に記入してください。
5 「始め」の合図があったら、すぐに受験番号と氏名を解答用紙に記入してください。
6 試験中に質問があれば、手をあげて先生に聞いてください。
7 「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおいてください。

〔一〕

次の、言葉に関するそれぞれの問いに答えなさい。

問い1 次の――線部の漢字の読み方が他とちがうものを、下の**ア**～**エ**から選び、記号で答えなさい。

(1) [ア 無残　イ 養蚕　ウ 通算　エ 分散]

(2) [ア 入梅　イ 売買　ウ 倍増　エ 参拝]

(3) [ア 貿易　イ 交易　ウ 平易　エ 易者]

問い2 次の――線部を漢字に直しなさい。

(1) 花を**ソナ**える。

(2) 夢から**サ**める。

(3) 荷物を**アズ**ける。

(4) 理想を**ツイキュウ**していく。

(5) 傷口(きずぐち)を**ショウドク**する。

問い3 次の□の中に適切な言葉を入れてことわざを完成させなさい。ただし、(1)は漢字一字、(2)はひらがな三字とします。

(1) □の耳に念仏

(2) □は人のためならず

問い4 次の漢字の部首名をひらがなで答えなさい。

(1) 刻　(2) 護

問い5 次の――線部の敬語の種類を、あとの**ア**～**エ**から選んで、記号で答えなさい。

(1) 社長に今日のスケジュールを申し上げる。

(2) 王様が夕食をめし上がる。

ア 尊敬語　**イ** けんじょう語　**ウ** ていねい語

〔二〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①にっこりするというのは、もっとも簡単な挨拶(あいさつ)です。一瞬(いっしゅん)であっても、気持ちを通じ合わせるというサインになります。もちろん、時と場合によっては無表情でいることが必要な場合もあるでしょうが、少なくとも、友好的に生活していく上では、表情はとても大切な要素になるということは言えるでしょう。いろんな思いを伝える表情は、いわば、言葉以前の「ことば」と言えるのかもしれません。

例えば、②アメリカの大統領候補者(こうほしゃ)は自分の表情について研究するそうです。映画俳優(はいゆう)でも片方の眉(まゆ)を上げ、そちらのほうの口元だけ笑うようにするという、「顔の半分で笑う」ような表情を見せてくれることもあります。

（ A ）、表情について相当意識しているのではないかと思います。

先日、(注1)バンドン市内で、小さな子どもたちが音楽を聴(き)かせてくれるところへ行ったときのこと、たまたまとなりに

日本人の青年が座っていたのですが、小さな子がやってきて楽器を貸してくれても、司会者がジョークを言っても、見事なまで終始無表情でした。

日本の青年たちを見ていると、あまりにも[(1)]だなあ、と思うことが正直いってよくあります。例えば、日本で電車に乗っている時に観察する青年たちもそうですが、国際線の飛行機の中などで、サービスを受けとるときなども、他の国の人たちがサンキューなどと挨拶しているのに、石像のように[(1)]なままだった、というのを何回か見たことがあります。会釈ぐらいしたほうがいいんじゃないの、と言いたくなります。怒ってるの？　威張っているの？　という印象を抱いてしまうのです。

（　B　）、表情には文化による違いもあります。以前、台湾南部へ行ったときに聞いた話ですが、台湾でもいろんなところから来た人たちがいて、中国大陸南部のある地方から来た人たちはあまりにこにこしない文化なんだそうです。国際結婚をしてその文化の人たちと同じ屋根の下で暮らしている日本人女性の方から伺ったのですが、やはり、最初は怒っているのかな、とまどったそうです。でも、やがて、表情には出さなくても、あたたかい心を持った、とても優しい人たちであることがわかってほっとしたといいます。

もちろん、表情を出す文化と出さない文化のいずれが「よい」などと言うことはできません。（　C　）、いろいろな人と出会う現代社会にあっては、文化的なことも含めて、表情について考えてみる機会を持つことはいいことのはずです。国際化時代でいろいろな文化の人と出会う場合、(注2)愛想のよい表情で失敗することより、愛想が悪い表情で失敗することのほうが多いのではないかという気もします。

そこで、③提案です。その相手と出会えてうれしい、という思いがあるならば、（　D　）、ありがとう、という気持ちがあるならば、たとえ少しでも、にっこりしてみるといいのではないでしょうか。ほほえむだけでも、少し眉毛を上げるだけでも、唇をゆるめてぴょこんと首を動かすだけでもかまいません。ちょっとした表情の違いがあたたかい雰囲気をつくると思うのです。それもできないという場合は、例えば、表情にも少し関心を持つというだけでもいいと思います。

④表情も重要なコミュニケーション(注3)の道具なのです。

おもしろいことに、表情は相手を説得する場合にも有効です。話をしているとき、ここは相手によくわかってほしい、というときに眉毛を上げて相手の目を見ると、印象が違ってきます。学生時代、なぜかその人と話をすると説得されてしまう人がいたのですが、その人は、「そうでしょう？」と言うときに、少し眉毛を上げて、じっと視線を合わせるような話し方をしていました。話の要所(注4)要所でそういう表情を見せられると、つい、うん、うん、と首を縦に振って賛成してしまうから不思議でした。

眉毛の動きというと変な感じがするかもしれませんが、人形を使った腹話術などでも口だけではなく、眉毛も動くようになっている人形が多いようです。眉毛の動きは意外に大切なのです。そういえば「[(2)]」ということわざもあります。

ついでながら、あのレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」の絵ですが、眉毛が見えません。⑤モナリザの微笑は楽しいのか、悲しいのか、それともほかの感情なのか、よくわからない不思議な微笑だと言われています。確かに何か不思議な感じがするのですが、このことは、眉毛が見えないということとも関係があるように思います。目などの表情によって伝わる感情というものも意外に大きいのです。

（森山卓郎「コミュニケーションの日本語」から）

（注１）バンドン市＝インドネシアの都市。
（注２）愛想のよい＝人への対応がよい様子。
（注３）コミュニケーション＝気持ちを伝えあうこと。
（注４）要所要所＝重要な部分部分。

問い１ ①にっこりするというのは、もっとも簡単な挨拶です。とありますが、なぜそのように言えるのですか。本文中の言葉を使って、二十字前後で説明しなさい。

問い２ ②アメリカの大統領候補者は自分の表情について研究するとありますが、その理由として最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 国民の気持ちを知るために必要なサインは表情に出るから
イ 大勢の人々を前にした緊張（きんちょう）を表情によって隠（かく）すことができるから
ウ 時と場合によって違う表情を出すことを人々に求められているから
エ 国民に好意的に受け入れてもらうためには表情が重要な道具になるから

問い３ （　　）A～Dに入れる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア ［A　やはり　B　もっとも　C　また　D　しかし］
イ ［A　やはり　B　もっとも　C　しかし　D　また　］
ウ ［A　もっとも　B　やはり　C　しかし　D　また　］
エ ［A　もっとも　B　やはり　C　また　D　しかし］

問い４ (1)に共通して入る言葉として、最も適当なものを本文中から三字で書きぬきなさい。

問い５ ③提案とありますが、筆者の「提案」をまとめた次の文の空らんに入る言葉を、本文中から書きぬきなさい。

相手に好意や感謝を伝えるために［　　］を変えてみようという提案

問い６ ④表情も重要なコミュニケーションの道具なのです。とありますが、これと同じ内容を表している部分を本文中から一文で探し、最初の五字を書きぬきなさい。（、や。も字数に数える。）

問い７ ［　(2)　］に入ることわざとして最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 目の色を変える　**イ** 目からうろこが落ちる
ウ 目には目を歯には歯を　**エ** 目は口ほどにものを言う

問い8 ⑤モナリザの微笑は楽しいのか、悲しいのか、それともほかの感情なのか、よくわからないとありますが、このように言われているのはなぜですか。その理由をまとめた次の文の空らんに入る言葉を、本文中から書きぬきなさい。

人の感情を知るためには［　　］が思っている以上に大切であるから。

問い9 次のそれぞれの文について、本文で筆者が言っている内容と合っているものには「○」を、合わないものには「×」をつけなさい。

ア 表情に関する各国の文化を知ることは大切である。

イ 表情を出さない文化は表情を出す文化に劣っている。

ウ 相手を見ながら話すことは相手を説得する場合に効果的である。

エ 表情よりも言葉の方が自分の考えを示す最も有効な手段となる。

〔三〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」の「お姉ちゃん」は障がい者であり、福祉作業所で働いている。ある日帰宅した「お姉ちゃん」は、台所で夕ご飯の仕度をする「お母さん」を見て、とつぜん泣きだした。

ぼくは階段をかけおり、台所へ飛びこんだ。お姉ちゃんが台所の床に、大の字になってわめいていた。

「らめ、らめ、ごあんらめ！　えとあんく！」

「ひろ、どうしたの？　何がだめなの？」お母さんがエプロンで手をふきながら聞いている。

「えとあんくって何のこと？」

「ママ、お姉ちゃん、レストランって言っているんじゃないかなぁ。」

「レストランなの、ひろ？」すると、お姉ちゃんはけろっと泣きやんで、大きくうなずいた。

「だけどもう、夕ご飯、おおかたできちゃったのよね。ねぇ、ひろ、あしたじゃだめなの、レストラン？」

a「らめ！　パパ、うーきいまんた。」

「確かに、パパ指切りげんまんしたけど、パパだって、レストランだと思ってやしないわ。どうして、今日じゃなくちゃだめなの？」

「どうしてって聞いても、お姉ちゃんわからないよ。何かあるんだよ、きっと。」

「誕生日でもないし……、何かの記念日かしら……、心当たりないわ。でも、今朝からはしゃいでいたものね。こんなふうにこじれると強情なんだから、ひろは……」

「まったく。①鉄の女だね、お姉ちゃんは。」

そうぼくが言うと、お姉ちゃんは今泣いたカラスで、にかっと笑いながら、手の甲で涙をふいた。ぼくとしては、レストランの方がありがたいから、お母さんのしぶい顔とは反対ににこにこ顔だった。

朝、出かけに指切りしただけあって、お父さんは七時ちょっと過ぎに帰ってきた。

「えっ、レストラン？　ご飯の仕度できてるのにかい？」

お父さんは、お母さんの話を聞くと、②まゆげを八時二十分にして、大きな目玉を白黒させた。

「そんなふうにあまえさせて、いいのかい？」お父さんはしぶっている。
「でも、あなた、指切りげんまんしたんでしょ。あれには、レストランへ行くってことがふくまれてたのよ、ひろにすれば。」
「うっかり指切りもできやしない。」
「何か、③あの子なりに考えがあるのよ、きっと。」
「そうかなぁ。」
お姉ちゃんは、お父さんがうがいをしたり、手をあらったりする間ももどかしそうに、b……ずっとまとわりついていた。背広をカーディガンに着がえたお父さんが、「それじゃ、行くか。」とみんなに言った。お姉ちゃんは大きめのポシェットを首からかけ、いちばんに玄関に走っていった。ぼくたちは、夕暮れの心地よい春の風に吹かれながら、もうすっかり葉ざくらになったさくら並木を、お姉ちゃんを先頭にあるいていった。
やがて料理がはこばれてきて、ウェイターが勘定書きをそっとテーブルのはしに置いていった。すると、お姉ちゃんはその紙を手に取ってながめながら、いかにもわかったといったぐあいに、c……こくんこくんとうなずいた。
「どうしたの、ひろ？」お母さんが言った。そのとき、お姉ちゃんが勘定書きをかざしながら何か言ったのだ。
「あ、ん、※@▲：#……！」だれも聞き取れなかった。
「ひろ、それこっちへよこしなさい。早く食べないと冷めてしまうよ。」
お父さんはステーキを切るナイフを置いて、手をのばした。すると、お姉ちゃんがついと立ち上がったのだ。そして、首にかけたポシェットから、一通の封筒を取り出し、お母さんに差し出した。
「なあに、これ？」つぎの瞬間、まるで、時間が止まったように、お母さんの目は、封筒の上にくぎづけになった。
「パパ……」お母さんはやっと口をきいた。お父さんが、お母さんの差し出した封筒を受けとった。ぼくも横からそれをのぞきこんだ。封筒の表に、青いスタンプの文字があった。

給与（四月分）	福祉作業所

「何、これ？」ぼくはお父さんの顔を見上げた。お父さんの目がうるんでいた。④うつむいたお母さんの肩が、小刻みにふるえている。
「どうしたの、ママ？」
「これはね。」と、お父さんはせきばらいしていった。
「これは、ひろが働いていただいた、初めてのお給料なんだよ。」
「ひろ、それで、私たちに、ごちそうしてくれる、つもり、だった、のよ。」お母さんの声は、とぎれとぎれだった。
「ひろ、ありがとう。」お父さんは封筒を両手でうやうやしくいただくようにしてから、お姉ちゃんに向かって笑いかけた。その笑顔がこわばって、お父さんは⑤またせきばらいをした。
「へえー、お姉ちゃんのおごりかあ。すごいや！」すると、お姉ちゃんは、もう顔中を笑顔にして、⑥得意満面だった。
福祉作業所には一度だけ行ったことがある。古ぼけた木造の建物だった。入ると、大きな作業台が三台並んでいて、パイプいすにすわった人たちが二十人ほど、向かい合って、紙の箱を折る仕事をしていた。有名な洋酒メーカーのウイスキーを入れる箱だ。あそこで、九時から四時半まで働くのだ。
そうやってもらった給料なのだという。その給料で、ぼくたちに食事をごちそうしてくれるというのだ。ぼくは封筒の中身が気になった。いったい、いくら入っているのだろう。
お父さんは、うつむいたままのお母さんに声をかけた。

「さあ、ママ、ごちそうになろうじゃないか。」お母さんはハンカチで目頭をおさえた。

「ママ、なたらめよ（ないちゃだめよ）。」お姉ちゃんは、心配そうに顔をのぞきこんだ。お母さんがなぜ泣いているのか、わからなかったにちがいない。家族のみんなからありがとうと言われて、お姉ちゃんは小さな子どもがやるように、ぱちぱちと手をたたいた。ぼくはそっとお父さんに聞いた。

「ねえ、お姉ちゃん、いくらもらったの？」お父さんは封筒の中から、お札をちょっとつまんで見せた。千円札が三枚、顔をのぞかせた。（え、たったこれっぽっち！）その言葉をあわてて飲みこんだ。［　(1)　］。ああやって一日中働いて、ひと月の給料がこれだけなのだ。

食事が終わった。お父さんはお姉ちゃんに、勘定書きと封筒をわたして言った。

「ひろのお給料だ。ひろがはらっておいでよ。」みんなの食事代をはらう［　(2)　］を、お姉ちゃんにあたえたのだ。

お姉ちゃんはぼくらをしたがえて、意気揚々とレジへ向かった。ぼくはあわてて お父さんのカーディガンのすそを引っ張って、耳打ちした。「パパ、あれじゃ足りないよ、きっと。」するとお父さんは、だまってぼくにウインクを送ってよこした。その意味はすぐにわかった。

「まいどありがとうございます。五千二百円いただきます。」お姉ちゃんは、封筒をのぞきこむようにしてお札を全部取り出すと、「あい！」と勢いよく差し出した。

その手ににぎられていたのは、三枚の一万円札だったのだ。

（丘修三「ぼくのお姉さん」から）

問い1 ①鉄の女とは、どのような性格を持っていることをたとえた言葉ですか。本文中から探して、ぬき出して答えなさい。

問い2 ②まゆげを八時二十分にして、大きな目玉を白黒させた。とありますが、そのときの「お父さん」の気持ちとして、適当なものを次から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア あせり　**イ** 落胆　**ウ** 驚き　**エ** 切なさ　**オ** 困惑

問い3 ③あの子なりに考えがあるのよ、とありますが、「ひろ」の考えを説明した次の文の空らんにあてはまる言葉をそれぞれ本文中から探して、ぬき出して答えなさい。ただし、［ア］は七字、［イ］は五字とします。

自分の［ア］で、家族に［イ］ようという考え

問い4 ④うつむいたお母さんの肩が、小刻みにふるえている。とありますが、その時の「お母さん」の様子として適当でないものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 自分が泣いていることを「ひろ」には気づかれまいとしている。

イ 家族を思う「ひろ」の優しい気持ちを感じて、胸がいっぱいになっている。

ウ 「お父さん」が「ひろ」をゆるそうとしていることがわかり、ほっとしている。

エ 自信にあふれた「ひろ」の姿に成長を感じ、喜びをこらえきれなくなっている。

問い5 ⑤またせきばらいをした。とありますが、「お父さん」がせきばらいをしたのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア 感謝の気持ちを伝えたくて笑いかけたものの、涙がこみ上げ、不自然になってしまった笑顔をごまかしたかったから

イ 少しの給料しかもらえないかわいそうな「ひろ」を励ますためにも、作業所への不満でこわばった表情をかくしたかったから

ウ 自分も「お母さん」も胸がいっぱいで話せそうにもないので、「ぼく」にどうにかしてほしいとさりげなく伝えたかったから

エ 家族に対する「ひろ」の優しさがとてもうれしかったものの、レストランへ行きたいという気持ちをわがままだと決めつけてしまいバツが悪かったから

問い6 ⑥得意満面だった。とありますが、この他に「ひろ」の「得意」な様子が書かれている部分を三つ、本文中の……線部a～fから選んで、記号で答えなさい。

問い7 (1)［　　］。にあてはまる文として、最も適当なものを次から選んで、記号で答えなさい。

ア お姉ちゃんのにこにこ顔が、こちらを見ていたからだ

イ お姉ちゃんが、今にも泣きそうな顔をしていたからだ

ウ お姉ちゃんのふくれっ面が、こちらを見ていたからだ

エ お姉ちゃんに、金額のことを話してもわからないからだ

問い8 (2)［　　］にあてはまる言葉として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 試練　**イ** 栄誉　**ウ** 苦悩　**エ** つぐない　**オ** きっかけ